

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600048		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホームさくらんぼ須屋		
所在地	熊本県合志市2863-4		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	令和4年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は20代から60代まで幅広く、入所者の方から「孫や息子嫁みたい」と昔の多世代家族の様な環境の中で一人一人の思いを大事にし寄り添うケアを心がけている。ホームの庭ではキンカン・サツマイモや桜・アジサイなど野菜や樹木を育てており、ホールから眺めたりテラスで日光浴したり四季を感じながら ゆっくり過ごして頂いている。本年度は、新型コロナ感染症防止の為、日常の外出や地域との交流を控えているが、ホーム内の長い廊下を午前と午後歩行し体力維持に努めている。また、夏祭り・運動会・クリスマス会などの行事を計画し、入所者の笑顔が少しでも増えて楽しみが持てる様に、今できる支援を全職員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症への対応から地域をはじめ外出する機会は減少しているが、デッキでの日光浴、ホーム庭での花見(桜・ポピー・水仙ほか)や畑で玉ねぎやさつまいも等を栽培から収穫までを楽しんだ後は、食事の汁物やおやつとして提供されている。また、外出に代わる楽しみ事を工夫しており、ユニット合同で開催された夏祭りでは入居者と職員が輪になって盆踊りや、駄菓子取りゲーム、輪投げ、ひんやりスイーツに舌鼓を打つなど、楽しい時間を過ごされている。これらの活動は毎月や号外の“さくらんぼ新聞”で紹介されており、面会を控えている家族にとってはホーム内の様子を知る機会として大変喜ばれている。コロナ禍にあっても入居者に穏やかな日常生活を支えながら、車いすの点検掃除日、爪を整える日、季節に応じた排泄用品の工夫など職員はチームワークで細やかな支援を継続させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「あなたと共に」を皆が集うホールに掲げて各チームのミーティングや全体会議のときなどにスタッフには伝えて実践に繋げている。	職員は入居者との日々の関わりから理念を掘り下げ、全体会議で振り返るようにしている。短い言葉に込められた思いを今後も大切にしていく事とし、現行の理念の継続を決めている。新年度には初回の広報誌に理念を入れ、地域や家族に向けて啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板で地域の情報を共有している。毎年、祭りや小学校で行われているイベントに参加していたが今年度は地域の清掃作業に職員のみ参加した。	ホームは自治会に加入しており、区費の納入や草取り作業に参加している。現在はボランティアの受け入れや小学生の体験学習なども中断されているが、登下校中の児童が雨宿りに訪れる等、地域での認識度も定着している。社協を通じて中学生から年賀状が届いた折には入居者が喜ばれたようで、管理者はこれまでのつながりが途切れないようにしたいとしている。	年賀状は掲示して入居者に楽しんでもらっており、ホーム側からも返信の機会があればと考える。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校の生徒の訪問や実習時は認知症に関する事をホームでの事例を通して話をしている。今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為に来所がなく活動出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為に、運営推進会議は行っていないが入居状況・利用者状況・行事や活動の報告は2か月に1回書面にて郵送している。また、さくらんぼ新聞も同封している。	コロナ禍により運営推進会議の直接開催を避け、書面での報告としている。委員には手渡しや郵送で議事録を配布し、入居者の現状を広報誌とともに伝えている。	議事録の送付時には委員から意見をもらうような働きかけや、研修会の報告などを通じて身体拘束に対するホームの取組を発信されることも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為運営推進会議に参加して頂く事は出来なかったが介護保険の更新手続きやワクチン接種に関して説明会に参加したり関係を築いている。	管理者は運営推進会議の議事録を行政担当者に直接手渡ししながら言葉を交わし、長年の関係性を大切にしている。コロナ感染症対策のやり取りや事故報告書の提出などを行い、現在中断されている介護相談員の来所が待たれるところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け年2回の勉強会・3か月1回のメンバーでの会議を行っている。点滴の際は職員の目の届くホールで抑制はせずに行っている。夜間以外は玄関の施錠もしていない。	身体拘束廃止に向けたホームの姿勢を明確にし、法人の全体研修やホーム内の勉強会で拘束及び虐待防止に向けて認識を深めている。入職者には新人研修で拘束の取組について伝え、全職員がチェックシートで自己を振り返る機会を持っている。センサーマットを使用する場合には、事前の説明を行い、継続の有無を見極め改めて説明をしている。	身体拘束委員会で就寝時における職員の声掛けや対応を検討したり、表皮剥離についての記録の徹底を図る事などを協議している。言葉使いについては入居者にわかりやすい表現や声のトーンなどに今後も注意を払うこととしている。継続した取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に関する指針を作成し、年2回の勉強会では集団指導用の資料を用いスタッフ全員が虐待防止についての意識を常に持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を2名の方が利用しており権利擁護や成年後見制度に関する勉強会でも知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明し、家族が十分納得された上で契約を行っている。契約後も何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時にはコミュニケーションを深め気軽に意見を言ってもらえるような環境を作っている。又、きちんと書類等に書き留めて会議やスタッフ間で話し合い改善を図りサービスの向上に努めている。	入居者の要望は普段の会話から聞き取っているが、食べたいものを口にされることが多いようである。感染症の状況を見て現在は窓越し面会で対応し、互いの顔を見て安心されており、家族からも面会について質問が寄せられている。入居者の普段の様子は“さくらんぼ便り”で伝え、コロナ禍での家族との関わりを重視している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月行い、年2回は全体の会議を行い職員の意見や要望を聞くようにしている。会議はできるだけ参加出来るやすい時間に行っている。	月の会議はケア会議を兼ねており、入居者の現状を共有して気づきや提案をケア向上に反映させている。職員間のチームワークが穏やかで風通しの良い環境を作っており、相談事はユニットリーダーから管理者に伝えられ、個別の話し合いに応じながら働きやすい職場作りが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・パートそれぞれに勤務に無理はないか確認したり、新人には入職して相談できる職員はいるかなど日々職員とは話す時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス全体の勉強会には参加できなかったが、今年度はインターネットを利用しリモート研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、他事業所との勉強会や交流会はなかったが 電話で情報は共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動に注意を払い、要望に耳を傾け遠慮なく思いを伝えられる環境作りを心がけている。不安な様子が感じられるときには居室など静かに話せる場で話を聞き寄り添うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減や不安が解消出来るように努めている。できるだけ思いを表出出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとって困っていることや要望を確認して、安心して生活出来る様、柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ思いを遠慮なく言えるような環境作りに努めている。普段の生活の中で個別で会話する時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに担当者が本人の様子を手紙で伝え、2か月に1回「さくらんぼ新聞」を発行しホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族にも遠慮なく要望や不安な事などが言える様な雰囲気作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症防止の為、面会やボランティアの方が来所出来ない様な状況が続いていたが、ガラス越しに面会が出来るようになり徐々に面会者も多くなってきている。	入居者は家族の面会を心待ちにしており、窓越しに互いを確認し、安心の表情を浮かべられるとの事である。外出や外部からの来訪者が制限された中で、室内活動や菜園づくりの充実を図り、玉ねぎやサツマイモの収穫後はホームで手作り料理が行われている。書道や縫物、家族からの嗜好品の差し入れなどこれまでの趣味や特技も活かされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で共同生活が出来るように見守ったり、間に入ったりしている。孤立しそうな利用者に対しては個別で対応しストレスにならない様に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が良ければ、いつでも連絡や相談をして頂ける様に声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者との日々のかかわりの中で、ここでの暮らし方について思いを聞き取り、今の気持ちを引き出す様に努力している。申し送りやカンファレンスを行い一貫した援助が出来るようにしている。	職員は日々の生活の中から、入居者の言動を通じて思いを確認し、カンファレンスで提案しながら支援に反映させている。車いすでの在位保持が長時間にわたらないよう、午後から1時間ほどベッドで横になってもらう等入居者の気持ちをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャーから入所前の生活歴・家族構成・身体状況の情報収集をしている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。本人の心身状況に応じて無理の無いように、今出来る事や興味のある事の把握に務めて生活に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見をまとめてプランを作成している。定期的な評価で現状を見直し修正を図りながら職員間で共有している。	職員を入居者の担当制としており、家族との連絡や個別の便り、室内管理などとともにアセスメントを行い、職員の声がプラン作成に反映されている。入居間もない方には心身の状況を見ながら、短期目標に馴染みの関係性や、日常生活の活性化を図る事などをあげ、1か月を目途に評価見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、注意事項などは申し送りノートを活用し職員間での情報収集を行っている。また、実践結果により介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、家族の代わりに病院受診に付き添ったり日用品を買いに行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症防止の為、外出の楽しみがない中、敷地内にあるコスモス畑を散歩したり、芋ほりをして収穫の喜びを持ち四季の変化を楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所前からのかかりつけを支援している。基本的に受診は家族対応としているが、入所者の高齢化に伴い協力医による訪問診療が多い状況である。又、緊急な場合等も家族に連絡とりながらホームで対応している。	入居前からのかかりつけ医を継続して支援しており、現在3か所の医療機関から訪問診療と、家族による受診支援も行われている。入居者の状況は受診結果を含め、家族と共有を図り相談事にも応じている。歯科は希望時に訪問による治療や口腔ケアが行われているが、感染症の状況拡大により1月から控えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面での変化やバイタルの異常がある時は看護師に早めに報告し早期発見に努めている。転倒・感染性疾患・救急時の処置の仕方などの勉強会を取り入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院や家族と連絡を取り情報を共有している。最近では面会や退院前の会議に参加出来ないため電話連絡が中心となっているが、ご家族とも相談しながら進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に関わる指針や取り組み体制について話をしている。ホームでの看取りを希望された家族には細目に状況を説明し主治医とも話し合いを持ち、今年度はコロナウイルス感染症防止に努めながら可能な場合は短時間の面会もしてもらった。	入居時に終末期支援に関する指針をもとにホームの取組を説明している。その時点ではホームでの最終を望まれる方、医療機関で治療を望まれる方が半数ずつおられ、その後も必要に応じ意向を聞き取っている。今年度お二人の看取り支援が行われており、法人への相談の後、家族も居室で面会の時間を持たれている。支援後のカンファレンスで、夜勤時の不安などについて意見が出されている。	今後も日頃の関わりを大切に、また、最終の支援についてはカンファレンスで出された職員の意見や気づきを活かされることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し救急車要請の訓練やスタッフの緊急連絡網も電話の近くに貼りだしている。今年度は消防署の方を呼んでの訓練は行っていないが所内での勉強会で知識を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナウイルス感染症防止の為に消防署を呼んでの訓練は行っていないが、年2回所内で災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を行っている。必要な備蓄は法人で保管している。	災害・夜間想定を含んだ消火避難訓練を実施している。地震から火災が発生した防災訓練で入居者は、職員の声掛けにしっかり耳を傾け避難されている。災害備蓄は法人で確保し、ホーム内では水と1日分の食料のみ備えている。感染症の影響から消防署の参加を得た防災訓練や応急手当、初期対応の訓練には至っていないが、ホーム内で勉強会を開催している。	感染症の状況を見ながら運営推進会の中での訓練なども検討いただきたい。また、防犯に関する研修や法人で確保されている備蓄については、ホーム内でもリストを掲示しておくなど職員の周知に繋がる取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性や人格を尊重した介護を基本と考え、その方に合った声かけを心がけている。又、排泄・入浴・個室でのプライバシーについては入所者が安心でき気持ちよく過ごして頂ける様に努めている。守秘義務については入職時や研修を通して知識を深めている。	一人ひとりの尊重やプライバシーに配慮した支援については、研修会や日々のケアの中で共有を図り、実践に繋げている。呼称は苗字を基本としているが、同姓や以前利用されていたデイサービスでの呼ばれ方から下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれの支援として、感染症の状況から控える月もあったが定期的なカット支援や日曜日は爪を切りそろえている。現在、衣類の管理や衣替えは家族に代わって職員が行っており、盆・正月は新しい衣服を用意される家族もおられるようである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リハビリ体操・レクレーションへの参加、入浴や休む時間などは日常生活の中で自己決定して頂けるように努めている。意思表示の難しい入所者に対しては表情や動きなどを察知し本人の思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかなスケジュールはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切にしながらゆっくり過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人家族の希望を考慮し服装や季節・体型に合った服装に心がけている。起床時や入浴時は整髪・髭剃りなど身だしなみには注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けやおしぼり準備・茶碗洗いなど行っている。嚥下状態に応じキザミ・ソフト食を、苦手な献立時には代替りの食事を準備している。現在食事は業者に依頼しているため、おやつ時に手作りや季節の果物を提供している。	ご飯・粥、汁物をホームで作り、副菜は業者による調理済みの物を使用し、ミキサーや小キザミ、一口大、ムース食など嚥下力に応じて提供している。苦手な食材には代替えを準備し、入居者は肉類を好まれる方も多いようである。訪問当日も個々に応じてカットされたから揚げを「旨かですよ～」と完食されていた。おやつはユニットごとに準備し、飲み物もコーヒーや牛乳、冬は温かい飲み物(ココア・カルピス)、お茶(熱め・ぬるめ)など好みも聞きながら用意している。誕生会ではスポンジケーキを用意し、職員がデコレーションしている。	検食者1名が同じものを摂っており、入居者の代弁者として気付きや感想などが反映されることを期待したい。業者に意見交換する手段を持つ事も必要と思われる。入居者は職員と一緒に盛り付けや茶わん洗いなどに取り組みされており、引き続き個々に応じた食への関わりを支援いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、体操・レクレーション・入浴後など小まめに水分補給を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけ、誘導を行っている。出来る範囲まで自分で歯磨きをして頂き、最後に職員が口腔内の確認をしたり介助が必要な方にはスポンジ等を使用している。夜間は義歯を預かり、ポリドントに浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。普段オムツの方も状況に応じトイレに座って頂いたり排便や尿量によってはパットの大きさを考慮し使用している。	現在、殆どがリハビリパンツを使用されており、大・小パットの使い分けを検討している。日中はトイレでの排泄を基本とし、自立の方の見守りや声掛け・誘導に努める他、1日を通しテープ式オムツを使用される方もおられ、プライバシーに配慮しながら交換している。布パンツの方も冬はリハビリパンツを使ったりもするが、春には布に戻すなど、担当者はケア会議でより良い支援を提案している。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、週末にトイレブラシも含めて洗浄などが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンや下剤の服用状況を把握した上で、声かけや誘導を行っている。水分補給やコーヒーを牛乳に変更したり、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時には乳製品(牛乳・ヨーグルト)などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後から行い、浴室では個々に合わせた入浴方法を工夫しゆっくり会話をしながら行っている。季節ごとに柚子や菖蒲を入れて楽しんで頂いている。入浴拒否がある方は午前中に入って頂いたり柔軟な対応を行っている。	週2回、同性介助への要望にも応じながら午後からゆっくりとした入浴支援に努めている。身体状況からシャワー浴が中心の方もおられ、湯冷めなど無いよう工夫している。入浴を拒まれる場合は、午前中に声掛けするなど配慮し、一人ひとりが自分のペースで入浴を楽しんでもらえるようにしている。入浴後は個々に応じて保湿や水分補給が行われている。	浴室内は清潔に管理されており、今後はシェーバーの管理場所なども検討されることが必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間の早い方は朝食後しばらく休んで頂いたり、日中はレクリエーションや体操で体を動かしている。夜間眠れない時は安心して休める様な声かけ、傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁掛け袋に一人一人入れてあり内服確認している。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。現在インシュリン注射も行っている入所者もおられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中リハビリ体操・レクリエーションを行っている。昼からは塗り絵が好きな方には季節感ある塗り絵・他にパズル・歌番組の視聴など本人が楽しんで過ごして頂ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルス感染症防止の為に外出は控えているが、気候に合わせ敷地内の散歩やコスモス畑を見に行ったりテラスに出て季節の樹木や花を眺めたりしている。又、ガラス越しの面会を行い家族にも安心して貰っている。	以前のように地域での桜見や初詣、コンビニ店の利用などは控えており、デッキでの日光浴や庭先の木々や草花の開花を楽しんでいる。また、近隣のコスモス畑に出かける等、感染症の状況を見ながら支援し、様子は“さくらんぼ新聞”で家族へ知らせている。職員も外出に出る機会が少ない分、庭先に咲いた花などを持ち寄っており、水切りをされる入居者もおられる。家族との受診は外出の一つとなっており、車中を楽しみ帰園されている。	引き続きデッキや庭先での外気浴など継続されることを期待したい。また、感染症の状況を見ながら以前のように登下校の学童の見守りなど再開されることが期待される。DVDやYouTubeなどを活用して全国の花見や名所めぐり、旅行気分を味わえるような取組も良いと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は家族の希望に応じ数千円預かり、金庫内に保管している。ちょっとした日用品等は現在コロナ禍で外出を控えている為にスタッフが購入している。家族が来所された時に残金やレシート、出納帳を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合、相手方の都合も考慮し電話を使用するよう支援している。家族から様子伺いの電話が来た際は本人と代わり話をしてもらったり、遠方に住む家族から敬老の日・誕生日・母の日などお祝いの品物が届く事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保ち日中はカーテンを開け光を取り込み定期的に窓を開け空気の入れ替えをし快適に過ごせる工夫をしている。テーブルに季節の花を花瓶に生けたりお正月や桃の節句、クリスマスなど、その時期に合った飾り物を置いている。	観葉植物や樹木などに詳しい職員もおり、ホーム内や庭先の管理を入居者と一緒を楽しんでいる。リビングの前は開設時から変わらぬ牧草畑が広がり、トラクターの出入りや刈り取りの様子から季節を感じる事が出来る。食堂を兼ねたリビングホールの席は感染症対策や入居者間の相性なども考慮して席の配置が検討され、花の図鑑や苗ものの雑誌を広げたり、家族から届けられたカラーマスクを付けて、ホームの様子を説明される方など、日常の光景が見られた。	リビングの壁には季節の壁面やイベント時などホームの日常を写した写真が掲示されている。家族も写真や作品などの見られる日を楽しみにされていると思われ、感染症の早い終息が待たれる。変わらぬ取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が好む場所を理解した上でホールでは入所者同士のコミュニケーションが出来るようにテーブルや椅子の配置に気を配っている。テレビ横や廊下にもソファを置きゆっくりできる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所者と家族の要望に合わせて使い慣れた家具を持参され、他にソファ・テレビ・家族の写真など飾ってある。	それぞれの居室にはソファや椅子、テレビ、家族の写真、必要な小物などが持ち込まれ、コロナ禍以前はソファに座り面会をされる家族もおられたようである。居室にはクロゼットやチェストが備わっており、衣類をはじめ普段使用しないものをスッキリ収納する事が出来ている。居室の掃除日には、車いすも点検を兼ねて行っており、清潔にホーム内での使用が出来ている。	建物が平屋造りであり、現在は居室で窓越し面会をされる家族もおられるようである。居室内の様子は気になる点と思われ、今後も掃除や整頓の様子など家族の安心に繋がるような発信に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており入所者一人一人の身体状況を把握し歩行器・車椅子の方にも安心安全に行動出来るスペースを設けている。部屋がわからない方にはドア近くに名前を書いたりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600048		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホームさくらんぼ須屋 (B棟)		
所在地	熊本県合志市2863-4		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	令和4年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は20代から60代まで幅広く、入所者の方から「孫や息子嫁みたい」と昔の多世代家族の様な環境の中で一人一人の思いを大事にし寄り添うケアを心がけている。ホームの庭ではキンカン・サツマイモや桜・アジサイなど野菜や樹木を育てており、ホールから眺めたりテラスで日光浴したり四季を感じながら ゆっくり過ごして頂いている。本年度は、新型コロナ感染症防止の為、日常の外出や地域との交流を控えているが、ホーム内の長い廊下を午前と午後歩行し体力維持に努めている。また、夏祭り・運動会・クリスマス会などの行事を計画し、入所者の笑顔が少しでも増えて楽しみが持てる様に、今できる支援を全職員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「あなたと共に」を皆が集うホールに掲げて各チームのミーティングや全体会議のときなどにスタッフには伝えて実践に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板で地域の情報を共有している。毎年、祭りや小学校で行われているイベントに参加していたが今年度は地域の清掃作業に職員のみ参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校の生徒の訪問や実習時は認知症に関する事をホームでの事例を通して話している。今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為に来所がなく活動出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議は行っていないが入居状況・利用者状況・行事や活動の報告は2か月に1回書面にて郵送している。また、さくらんぼ新聞も同封している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為運営推進会議に参加して頂く事は出来なかったが介護保険の更新手続きやワクチン接種に関して説明会に参加したり関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け年2回の勉強会・3か月1回のメンバーでの会議を行っている。点滴の際は職員の目の届くホールで抑制はせずに行っている。夜間以外は玄関の施錠もしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に関する指針を作成し、年2回の勉強会では集団指導用の資料を用いスタッフ全員が虐待防止についての意識を常に持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を2名の方が利用しており権利擁護や成年後見制度に関する勉強会でも知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明し、家族が十分納得された上で契約を行っている。契約後も何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時にはコミュニケーションを深め気軽に意見を言ってもらえるような環境を作っている。又、きちんと書類等書き留めて会議やスタッフ間で話し合い改善を図りサービスの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月行い、年2回は全体の会議を行い職員の意見や要望を聞くようにしている。会議はできるだけ参加出来るやすい時間に行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・パートそれぞれに勤務に無理はないか確認したり、新人には入職して相談できる職員はいるかなど日々職員とは話す時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス全体の勉強会には参加できなかったが、今年度はインターネットを利用しリモート研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の為、他事業所との勉強会や交流会はなかったが電話で情報は共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動に注意を払い、要望に耳を傾け遠慮なく思いを伝えられる環境作りを心がけている。不安な様子が感じられるときには居室など静かに話せる場で話を聞き寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減や不安が解消出来るように努めている。できるだけ思いを表出出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとって困っていることや要望を確認して、安心して生活出来る様、柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ思いを遠慮なく言えるような環境作りに努めている。普段の生活の中で個別で会話する時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに担当者が本人の様子を手紙で伝え、2か月に1回「さくらんぼ新聞」を発行しホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族にも遠慮なく要望や不安な事などが言える様な雰囲気作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症防止の為、面会やボランティアの方が来所出来ない様な状況が続いていたが、ガラス越しに面会が出来るようになり徐々に面会者も多くなってきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で共同生活が出来るように見守ったり、間に入ったりしている。孤立しそうな利用者に対しては個別で対応しストレスにならない様に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が良ければ、いつでも連絡や相談をして頂ける様に声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者との日々のかかわりの中で、ここで暮らし方について思いを聞き取り、今の気持ちを引き出す様に努力している。申し送りやカンファレンスを行い一貫した援助が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャーから入所前の生活歴・家族構成・身体状況の情報収集をしている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。本人の心身状況に応じて無理の無いように、今出来る事や興味のある事の把握に務めて生活に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見をまとめてプランを作成している。定期的な評価で現状を見直し修正を図りながら職員間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、注意事項などは申し送りノートを活用し職員間での情報収集を行っている。また、実践結果により介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、家族の代わりに病院受診に付き添ったり日用品を買いに行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症防止の為、外出の楽しみがない中、敷地内にあるコスモス畑を散歩したり、芋ほりをして収穫の喜びを持ち四季の変化を楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所前からのかかりつけを支援している。基本的に受診は家族対応としているが、入所者の高齢化に伴い協力医による訪問診療が多い状況である。又、緊急な場合等も家族に連絡とりながらホームで対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面での変化やバイタルの異常がある時は看護師に早めに報告し早期発見に努めている。転倒・感染性疾患・救急時の処置の仕方などの勉強会を取り入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院や家族と連絡を取り情報を共有している。最近では面会や退院前の会議に参加出来ないため電話連絡が中心となっているが、ご家族とも相談しながら進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に関わる指針や取り組み体制について話をしている。ホームでの看取りを希望された家族には細目に状況を説明し主治医とも話し合いを持ち、今年度はコロナウイルス感染症防止に努めながら可能な場合は短時間の面会もしてもらった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し救急車要請の訓練やスタッフの緊急連絡網も電話の近くに貼りだしている。今年度は消防署の方を呼んでの訓練は行っていないが所内での勉強会で知識を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度はコロナウイルス感染症防止の為に消防署を呼んでの訓練は行っていないが、年2回所内で災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を行っている。必要な備蓄は法人で保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性や人格を尊重した介護を基本と考え、その方に合った声かけを心がけている。又、排泄・入浴・個室でのプライバシーについては入所者が安心でき気持ちよく過ごして頂ける様に努めている。守秘義務については入職時や研修を通して知識を深めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リハビリ体操・レクリエーションへの参加、入浴や休む時間などは日常生活の中で自己決定して頂けるように努めている。意思表示の難しい入所者に対しては表情や動きなどを察知し本人の思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかなスケジュールはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切にしながらゆっくり過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人家族の希望を考慮し服装や季節・体型に合った服装に心がけている。起床時や入浴時は整髪・髭剃りなど身だしなみには注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けやおしぼり準備・茶碗洗いなど行っている。嚥下状態に応じキザミ・ソフト食を、苦手な献立時には代替りの食事を準備している。現在食事は業者に依頼しているため、おやつ時に手作りや季節の果物を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、体操・レクリエーション・入浴後など小まめに水分補給を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけ、誘導を行っている。出来る範囲まで自分で歯磨きをして頂き、最後に職員が口腔内の確認をしたり介助が必要な方にはスポンジ等を使用している。本人や家族が希望される場合は歯科訪問診療や口腔ケア指導を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。普段オムツの方も状況に応じてトイレに座って頂いたり排便や尿量によってはパットの大きさを考慮し使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンや下剤の服用状況を把握した上で、声かけや誘導を行っている。水分補給やコーヒーを牛乳に変更したり、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時には乳製品(牛乳・ヨーグルト)などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後から行い、浴室では個々に合わせた入浴方法を工夫しゆっくり会話をしながら行っている。季節ごとに柚子や菖蒲を入れて楽しんで頂いている。入浴拒否がある方は午前中に入って頂いたり柔軟な対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や介護レベルで休憩時間を設けている。体力がある方は、なるべく昼間は起きて頂き夜間安眠できるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁掛け袋に一人一人入れてあり内服確認している。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。現在インシュリン注射も行っている入所者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中リハビリ体操・レクレーションを行っている。昼からは塗り絵が好きな方には季節感ある塗り絵・他にパズル・歌番組の視聴など本人が楽しんで過ごして頂ける様に支援している。職員と一緒に家事の手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルス感染症防止の為に外出は控えているが、気候に合わせ敷地内の散歩やコスモス畑を見に行ったりテラスに出て季節の樹木や花を眺めたりしている。又、ガラス越しの面会を行い家族にも安心して貰っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は家族の希望に応じ数千円預かり、金庫内に保管している。ちょっとした日用品等は現在コロナ禍で外出を控えている為にスタッフが購入している。家族が来所された時に残金やレシート、出納帳を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合、相手方の都合も考慮し電話を使用するよう支援している。家族から様子伺いの電話が来た際は本人と代わり話をしてもらったり、遠方に住む家族から敬老の日・誕生日・母の日などお祝いの品物が届く事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保ち日中はカーテンを開け光を取り込み定期的に窓を開け空気の入替えをし快適に過ごせる工夫をしている。感染予防の為に清掃・消毒にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が好む場所を理解した上でホールでは入所者同士のコミュニケーションが出来るようにテーブルや椅子の配置に気を配っている。テレビ横や廊下にもソファを置きゆっくりできる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所者と家族の要望に合わせて使い慣れた家具を持参され、他にソファ・テレビ・家族の写真や思い出の品を飾ってリラックス出来るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており入所者一人一人の身体状況を把握し歩行器・車椅子の方にも安心安全に行動出来るスペースを設けている。部屋がわからない方にはドア近くに名前を書いたりしている。		